



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 岸谷義雄 定価 1部44円 (購読料は分担金を含む) 題字 井戸知事

ひょうご消防のつどい2011 開催

消したはず 決めつけないで もう一度

消防団・消防本部の幹部約500名が洲本市文化体育館に つどい

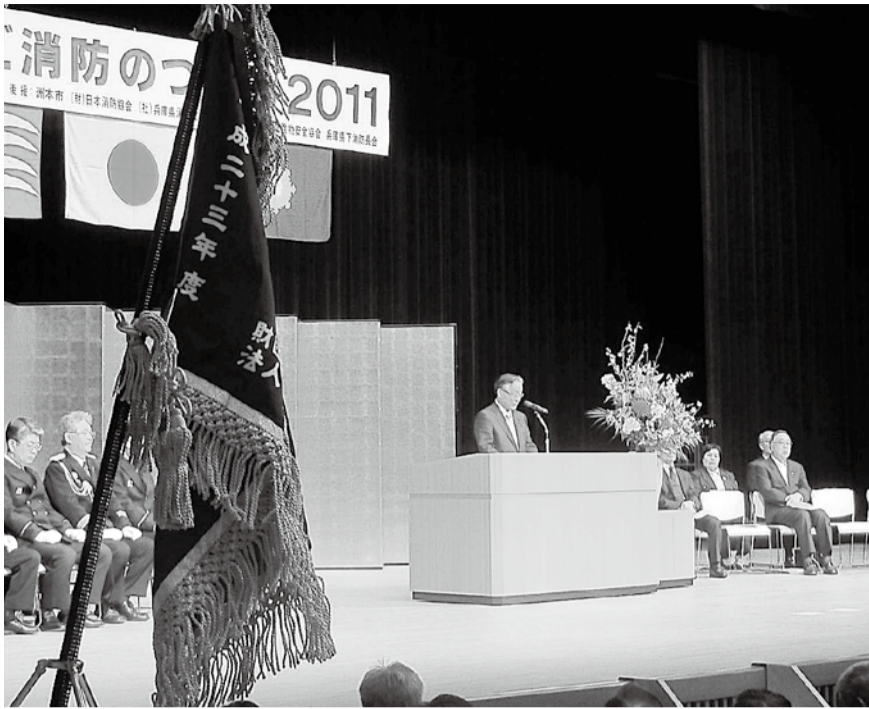
平成二十三年一〇月一六日(日) 洲本市文化体育館でひょうご消防のつどい二〇一一年が開催されました。

このつどいは、兵庫県下の消防本部・消防団の幹部が共に集い、永年にわたり消防業務に従事してきた消防職員・消防団員

の功績を讃えた表彰を行うとともに、幹部の研修を行い、士気の高揚と知識・技術の研鑽を深めることを通じて消防人の強固な団結と消防機関の連携体制を確立することを目的に実施しているものです。本年度は、第一部に知事表彰及び県消防協会長

次第

- 第一部 開会のことば 竹口副会長 国歌吹奏



つどいの様子



吉本副知事式辞



岸谷会長あいさつ



表彰伝達の様子

黙祷

兵庫県消防協会会長あいさつ

岸谷消防協会長

兵庫県知事式辞

吉本副知事

開催市長あいさつ

洲本市 竹内市長

表彰

兵庫県知事表彰・感謝

兵庫県消防協会会長表彰・感謝

来賓祝辞

加茂県議会議長

梅木消防長会副会長

受章者代表謝辞

宝塚市消防本部消防監

石橋 豊

第二部

アトラクション

「だんじり唄」

五色之姫

第三部

講演

「災害史に学ぶ」

立命館大学歴史都市

防災研究センター

教授 北原 糸子



アトラクション



北原糸子氏の講演

表彰を、第二部に「五色之姫」によるだんじり唄、そして第三部には立命館大学歴史都市防災研究センターの北原糸子氏を講師に迎え講演が行われました。

第二部のアトラクションでは、地元洲本市五色町の「五色之姫」によるだんじり唄が披露されました。演目は「厚壁の母」で、日頃の練習で培われた歌声と太鼓の力強い音が会場全体に響き渡りました。

第三部は立命館大学歴史都市防災研究センター教授の北原糸子氏に「災害史に学ぶ」と題し、講演をいただきました。過去の災害の事実と当時の地域の状況

第二〇回全国女性消防操法大会

豊岡市女性消防隊が「優良賞」を受賞！

日本全国の女性消防隊の操法技術ナンバーワンを決める第二〇回全国女性消防操法大会が横浜消防訓練センター(神奈川県横浜浜市戸塚区)で二〇月九日に開催されました。全国各地から出場隊、応援者などが駆けつけ、兵庫県からは、豊岡市女性消防隊が出場し、開会式終了直後の一番目に操法を披露しました。大会当日は非常に寒く、また強風が吹く中、トップバッターの緊張感をはねのける堂々とした操法を展開し、



日々の訓練成果を十分に発揮するものでした。その結果、タイ



大阪府 兵庫県 奈良県 豊岡市女性消防隊が「優良賞」を受賞しました。

を知り、これからの課題を過去の事実から導き出すことで、地域防災の重要性を改めて認識できたお話しでした。

なお、今年度の表彰の栄に輝いた団体・個人は次のとおりです。

- 兵庫県知事表彰 ○表彰旗 豊岡市豊岡消防団 ○竿頭綬 神戸市須磨消防団 洲本市消防団 神河町消防団
- 功労章 消防団員 五一名 消防吏員 七五名 ○永年勤続功労章 消防団員 二〇四名 消防吏員 一一七名 ○表彰状 消防団員 一団体
- 兵庫県知事感謝 ○家族の賞 消防団員の部 五九〇名 消防吏員の部 一三五名 ○親子二代の賞 消防協力者賞 六三組 個人 三名
- 事業所の部 三団体
- 兵庫県消防協会長表彰 ○表彰旗 神戸市西消防団 ○竿頭綬 小野市消防団 たつの市消防団
- 功績章 一四一名 ○精進章 二二三名 ○勤続章 三五四名 ○精勤章 四三八名
- 兵庫県消防協会長感謝 ○家族の賞 三〇年以上 一六〇名 四〇年以上 二七名 五〇年以上 二名

### 阪神地区消防団長会行政視察を実施

阪神地区消防団長会

阪神地区消防団長会では、平成二三年九月二八日から二九日にかけて、宮城県、岩手県方面にて行政視察研修を行いました。

東日本大震災での甚大な被害を現地で肌と感じ、教訓として、消防団活動に役立てたいとの思いでした。

一日目、伊丹空港での早朝からの集合を完了し、トラブルなく出発。往路の飛行機ではプロペラ機で高度も低く、地上の景色を確認しながら宮城県に向かいましたが、仙台空港に近づくと地上の景色は一変し、被害の大きさを目の当たりにし、視察に臨む気持ちも一段と引き締ま

りました。

空港に到着すると、バスにて塩竈、松島地区の視察を行いました。現地では地盤陥没による満潮時の道路の水溢れに備えた土嚢が、いたるところに常置されているなど、被害の爪痕を感じさせるものでした。

道中、緊急消防援助隊として派遣された消防職員による被災直後の現場の様子や現場での活動などの解説や、地元運転手の臨場感に富んだ説明もあり、全員が胸の詰まる思いでした。また、車内では各市町の団長、事務局との交流も深められ、有意義な車窓研修となりました。昼食後は世界遺産に登録され

た平泉中尊寺で研修を行いました。現地では中尊寺職員による施設案内はもとより、世界遺産を維持するための消防設備や管理体制などの説明をしていただき、一日目の研修が終了しました。

二日目、朝食も早々に済ませ、地震により崩落した青葉城址の金鶏（金トビ）鑄像を視察後、緊急消防援助隊で兵庫県隊が活動した巨理地区行政事務組合消防本部に向かいました。

巨理消防では、地震、津波により消防資機材も多くの被害を受けたことから、阪神地区消防団長会より可搬式消防ポンプの贈呈を行い、巨理町長を迎えての式典を行いました。

現地の職員同乗・解説によるバスからの視察では、震災直後の熾烈な環境の中での活動の困難さ、消防団の重要性を訴えるもので、途上、奇跡的に小学生児童が屋上に避難し難を逃れた小学校にも立ち寄り、津波被害の恐ろしさ、防災教育の大切さも学ぶことができました。その後、署内でスライド等を使用した活動の詳細報告をしていただきました。

全ての日程を終え、最後は、阪神地区各消防団の消防魂と団

### 平成二三年度女性消防団員研修会

兵庫県消防協会

平成二三年度女性消防団員研修会が平成二三年九月一八日（日）に開催されました。

県下から八七名の女性消防団員が参加しました。

まず午前の部では、兵庫国際交流会館において講演会を開催し、午後の部では、人と防災未来センターを視察しました。

講演会では、在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課長の長谷川祐子氏をお招きし、「アメリカ式世界基準の防火・防災教育」～あなたの手で学んで届けよう地域の子供達へ～と題してご講演いただき、実践的な指

結を確認し合い、研修を終了しました。

阪神・淡路大震災を経験した私たちにとって、今回の視察は地震被害の性質の違いを様々な面で確認することができ、自分たちの地域での防災活動について改めて考えさせられるものとなりました。今回の視察研修で得たことを、今後の活動に生かしていきたい、災害に強い、より良いまちづくりに貢献していきたいと思

導も行っていました。

視察では震災の展示や津波映像の見学後、元神戸市消防局長小野田敏行氏の講話を聞いていただき、閉会しました。

この度の研修会では、長谷川祐子氏講演会の反響が大きく、「今後の消防団活動に活かしたい」「自分の子供達や、近所の子供達に早速教えたい」との感想をいただきました。

今年度は、平成二四年一月二二日（日）、場所は兵庫県消防学校での第二回の女性消防団員研修会も予定しています。

研修内容は未定ですが、多くの女性消防団員の参加をお待ちしております。

この度の参加消防団は次のとおり。

- ・神戸市灘消防団
- ・神戸市中央消防団

- ・神戸市北消防団有野支団
- ・神戸市北消防団淡河支団
- ・神戸市北消防団長尾支団
- ・神戸市北消防団道場支団
- ・神戸市北消防団有馬支団
- ・神戸市長田消防団
- ・芦屋市消防団
- ・川西市消防団
- ・加古川市消防団
- ・播磨町消防団
- ・小野市消防団
- ・たつの市消防団

- ・赤穂市消防団
- ・南あわじ消防団

県協会事務局では、この度の講演会の模様を録画したDVDの貸し出しを行っています。ご希望の方は、各支部事務局を通して、県協会事務局までご連絡下さい。



贈呈式



巨理町長へ贈呈



巨理消防署での研修の様子



人と防災未来センターを視察



研修会の様子1



研修会の様子2

「こんにちは！  
ひょうごの消防団です」

<http://www.hyogoshoubou.jp/>



わがまちの団長さん

(18)

「和」

川西市消防団

水口 充啓



川西市消防団は川西市誕生と同時に発足し、現在一分団四一八名で活動しています。

水口団長は昭和五〇年に消防団に入団され、平成一六年に副団長、平成二二年八月に団長に就任されました。

団長は、日本一の里山」といわれる市北部の自然豊かな黒川地区で誕生され、現在も黒川地区で暮らされています。

消防団への入団の動機は、黒川地区には毎年多くの観光客やハイカーが訪れますが、過去にたばこの不始末などが原因で山火事が多発したことがあり、山火事から黒川地区の自然を守る

「若手消防団員」

姫路市姫路西消防団

丸山 憲一



私が、消防団に入団した動機は、結婚して所帯を持ち、地域の為に何かしたいという気持ちがあったからでした。そして、消防団に入る事によって得る知識やスキルを身に付け、災害時は勿論、実生活の上でも役に立つと思えました。

そして、東日本大震災や、先日の台風による水害での消防団の活躍を目の当たりにして、改めて、消防団の必要性を認識しました。こういう事があって、災害時の消防団の在り方をより深く考

われら若手消防団員 (43)

える機会となりました。

他の地域の団員の方々と意見を交わしたところ、市街の消防団と郊外の消防団で違いがありました。

私の消防団は、市街に在るので、大災害を想定した訓練がもっと必要だと思いました。

それと同時に、AEDを含めた応急訓練を、町別や事業所、教育現場の関係者、小さい子供を持つお母さん等に、今以上に普及していきたいです。それにより、防災に高い関心を持つ地域にしたいです。

それには、時代と共に変わっていく生活スタイルや考え、世代別に合わせた訓練や講習を考えたい事も大事だと思います。

これからも、団長をはじめ、先輩や消防署員の方々に、たくさん教わり、一回でも多く人の役に立てる消防団員になるように、そして、そういう活動を見て消防団に入りたという人が一人でも増える様に、今以上に頑張ります。

ためだったそうです。

団長は水口酒店の二代目として酒店を営みながら、農業にも従事されておられます。丹精込めて育てられた新鮮な野菜は地元の人から絶大な信頼を得られておられます。

団長は日頃から団員に、地域住民とのコミュニケーションを大切に、信頼される団員になることを常々におっしゃられています。そして消防団が地域の中心となり、自分たちのまちは自分たちで守り、市民が安心して生活できるように日々精進されています。

女性団員にも気軽に声をかけられています。しかし、有事が発生したときには、自ら先頭に立つて指揮されるなどすばらしい統率力を発揮され、幹部や団員から絶大な信頼を得られておられます。

団長は日頃から団員に、地域住民とのコミュニケーションを大切に、信頼される団員になることを常々におっしゃられています。そして消防団が地域の中心となり、自分たちのまちは自分たちで守り、市民が安心して生活できるように日々精進されています。

消防団今昔 (83)

「震災と消防団」

芦屋市消防団

元副団長 中路 則昭



私は昭和四八年三月に知人の勧めで芦屋市の消防団員となり、当時は消火栓が少なく主に市内の池や川を水源としてポンプ操作、ホース巻・延長、放水訓練等を反復して行い、その習熟に努めてきました。

私が在任中、一番心に残っている災害は、やはり阪神・淡路大震災です。あの大きな揺れの直後、分団詰所へ向かおうと自宅を飛び出たところ、自宅前の木造二階建てアパートが完全に倒壊していました。「中にまだ



芦屋市内の倒壊家屋現場

人がおるんや」と住民の叫び声が聞こえたので、近隣住民と協力して手作業で瓦礫を撤去し、そこから二人の生存者を救出しました。

その後、所属する分団詰所で団員と合流し、火災現場に向かう班と倒壊家屋の救助現場に向かう班の二班に分かれました。私は職業が大工なので、建物の構造に長けていた事もあり、救助活動の間も



故郷を歩く

防火思想を伝えるために

丹波市消防団

合併し八年目を迎えた丹波市では、新市発足と同時に、伝統ある旧氷上郡六町消防団は組織を統合し、団員定数二、八四九人で丹波市消防団が発足しました。その後、組織再編を行い、平成二三年四月一日現在、一部、六支団、二九分団、団員定数二、一六一人で活動しております。

支団の一つである、旧氷上町地域の消防団幹部とOBで組織されている「ひかみまとい会」では、毎年地域の文化祭などで防火に関する啓発活動を行ってまいります。啓発活動の際、消防車を見つめる子どもたちの目、そして何より本物の防火服を着せてあげたときの子どものたちの喜びの表情をヒントに、本物を着ることを体験させてあげること、防火思想を伝えていけたらと、役目を終えた防火服をリフォームし、子供用防火服を作成されました。

同会では今後、消防団や自治

助現場を任せられました。当時は救出用の資器材が全くなく、団員は自らが持ち込んだ手鋸、ボール、かけやといった簡素なものばかりでした。救助活動の間も

減災に向けてひとり一人が「自分の命は自分で守る。」ことを真剣に考え、後世にしっかりと伝える時期にきているのではないかと強く感じています。現在の芦屋市消防団は、研修、訓練等を重ねながら、常備消防との連携訓練等にも積極的に取り組んでいます。芦屋市に住む一人の市民としても本当に心強く感じているのと同時に、地域に根づいた組織として、地域住民の信頼に応える組織へと、ますます邁進していくことを切に願っています。

会などの防災活動に対して貸し出しを行い、防災意識の高揚に役立てていかれます。また、二九分団の中に女性消防分団があります。実際の消火活動は行いませんが、こちらも地域の防災意識の高揚のため活動中です。保育園などでの防火に関する紙芝居の上演や、春季、秋季それぞれの全国火災予防運動に併せた街頭における啓発活動です。今年の秋季全国火災予防運動においても、大型店舗の店頭で自作の啓発チラシや啓発グッズの配布を行いました。どちらの活動も実際に火を消すという目に見える活動ではありませんが、それぞれの立場で地道に活動していただくことで、防火思想が伝わり、近い将来芽を出し花を咲かせてくれるものだと期待しております。

# 地区通信

## 「有湯フアイターズ」

神戸市北消防団 有馬支団 団員 関口 純子

有馬町は、日本の三名湯の一つに数えられ、阪神の奥座敷としても知られる歴史ある町です。有馬温泉には、古くは太閤秀吉をはじめ、歴史に名を残す方々も湯治に訪れました。江戸時代に作成された温泉番付では、西大関(当時最高位)にランクされており、有馬温泉を訪れることが出来ず、有馬を夢見て詠まれた歌が数多く残されていることから、古人の理想郷であったことがわかります。

今も観光地として名高い有馬温泉ですが、現在、有馬町で暮らす人口は、約一、五〇〇人ほどです。けれど、多くの旅館が立ち並び、観光客が訪れる有馬町では、日中のにぎわいに加え、夜間宿泊される観光客で、人口は一万人を超えることもありま

す。それに伴って災害危険度も増し、火災がおきれば、大火事になる危険も考えられるため、有馬支団の責務はたいへん重要であります。

有馬支団は、神戸市北区有馬町を所轄区域とし、現在団員六五名、分団は三分団、女性消防団員は七名で活動しています。消防、防災活動、訓練はもちろんですが、有馬のオータムフェスティバルでの寸劇の上演、小学校、地域との合同運動会や防災訓練の参加、

夏の川座敷イベントが近づくとの川の清掃を行うなど、地域と密着したさまざまな活動も数多く行っています。

なかでも女性消防団は、神戸市で初めて女性消防団が採用された平成一三年に結成されました。女性消防団「有湯(ゆ)フアイターズ」と名付けられ、消火に必要なポンプ操法訓練、出初式、林野火災警戒、防災訓練、年末警戒への参加など、一年を通じて男性団員と共にいろいろな活動を実施しています。

有馬町で暮らすメンバーを中心に構成されており、気心の通じた仲間とチームワークで創作寸劇の上演などで予防啓発活動を行っています。七人という、決して多い人数ではありませんが、これまでも「正しい救急車の呼び方」「心肺蘇生法」「防



火対策」「怖がらないでAED」などのテーマで寸劇を上演。台本、小道具、衣装、時には大道具も手作りで行いました。その結果、観る人に親しみを持ってもらい、「イザ!」という時に備えられる寸劇ができました。これからもより多くの方に楽しく、また、わかりやすく危機管理意識を持ってもらえる寸劇を皆で考えていきます。

有馬支団は、常に「迅速、安全、正確」をモットーに、一同、一致団結して有馬の町を守っています。

消防庁では、「消したはず 決めつけないで もう一度」を平成二三年度全国統一防火標語とし、平成二三年一月九日から一五日までの七日間にわたって、平成二三年秋季全国火災予防運動を実施しています。

火災が発生しやすい時季を迎えるに当たって、火災予防思想の一層の普及を図り、火災による死傷者及び財産の損失を防ぐ

ことを目的として、毎年「一九番の日」である一月九日に毎年実施されているものです。火災予防運動の実施に当たって、平成二三年六月に住宅用火災警報器の設置が全国で義務化されたことから、未設置世帯に対する働きかけ及び適切な維持管理に関する周知をはじめ、住宅火災による死者の発生防止対策の要点をまとめた「住宅防火

住宅防火のちを守る 七つのポイント

三つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

四つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、近所所の協力体制をつくる。

編集後記

だんだんと肌寒くなってまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。この時期はイベントシーズンであり地域の行事等も多く皆さま忙しくされていることと思います。

さて、今月号では、ひょうご消防のついで二〇一一、全国女性消防操法大会の記事について掲載しています。豊岡市女性消防隊の皆様におかれましては、優良賞の受賞おめでとうございます。

また、今月も各地区、各支部から多数寄稿していただき、ありがとうございました。

これからますます寒さが増し、暖房などの火の気を多く使う季節となりますが、火の取り扱いには十分に注意していきましょう。また、くれぐれも消防団員の家から出火しないように気をつけましょう。

**消したはず 決めつけないで もう一度**

11月9日～11月15日

秋の全国火災予防運動

備えよう! 住宅用火災警報器

後援: 消防庁 全国消防長会 制作: 日本防火・危機管理促進協会

宝くじは、地方自治体の公共事業等に幅広く使われています。

宝くじの収益金は、病院や福祉施設、公園や緑地、災害に強い街づくり、緑あふれる公園、美術館など、皆様の暮らしに役立てられています。

NEW! ワクワク、続々。

この運動を機に地域住民に対し、日頃忘れがちな火災に対する警戒心の喚起を行い、一人ひとりに防火の重要性を自覚させ、日常生活での防火の実践を働きかけましょう。

**災害復旧・復興支援金の贈呈**

兵庫県消防協会

平成二三年八月二十五日に発生し、西日本を縦断した平成二三年台風第一二号は紀伊半島において甚大な被害をもたらしました。

このたび、近畿地区消防協議会では、特に被害の大きかった奈良・和歌山両県の消防協会へ災害復旧・復興支援金としてそれぞれ二〇万円を贈りました。

みんなで入ろう 互助年金

**消防互助年金**

安全・確実・安心です!

老後の生活 安定のために!

**【消防の仲間が支える互助年金】**

人生80年時代! 老後の準備は怠れません

消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・会議などの際に、お呼びいただければ(財)日本消防商会の職員が説明に伺います
- ・費用は無料ですし、些少ですが会議費を助成致します
- ・消防互助年金制度説明用ビデオの貸し出しをしております

老後は良くしましょう

問い合わせはフリーダイヤル 0120-658-494

**消防服**

**消防設備点検・消火栓器具**

**キンバイホース** 兵庫県特約店

株式会社 **三浦消防**

姫路市龍野町1丁目1の2

TEL 079-292-0447 FAX 079-298-8663

URL <http://www.msyoubou.com/index.html>

E-mail [msyoubou0447@s9.dion.ne.jp](mailto:msyoubou0447@s9.dion.ne.jp)